

展示会

はじまりのかたちのきおく

会場 HUNCH (東京・大田区蒲田)

会期 2018年12月1日(土) - 4日(火) 15:00 - 20:00

オープニングパーティー

12月1日(土) 15:00 -

恵比寿のビストロ「ル・リオン」

全面協賛! 美味しいワインと、
おつまみ各種をご用意して、
ご来場をお待ちしております!

展示会

はじまりのかたちのきおく

会場 HUNCH (東京・大田区蒲田)

会期 2018年12月1日(土) - 4日(火) 15:00 - 20:00

書物・古物の魅力をあらたな角度から紹介すべく、2018年8月、東京・蒲田のアトリエビルHUNCHでうぶごえをあげた「かたちのきおく」。書物は書物であるがゆえに、ふだんその内なるゆたかな世界を見事に閉ざしている。古物は自らを用いた在りし日のひとびとの姿を顕かにしようと、今ここにある。

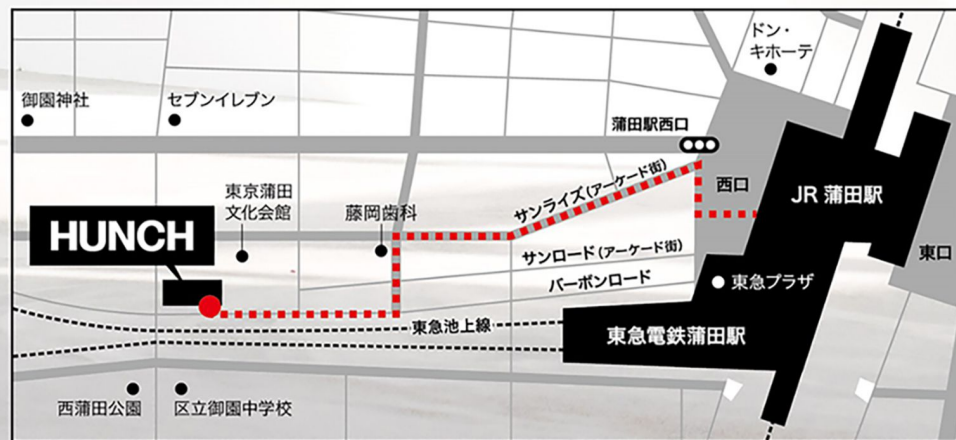
「かたちのきおく」とは、何かが生み出される空間なのか？あるいは提案されようとするひとつの価値観なのか？今回の展示会は、歩みだしたばかりの私たちのお披露目であり、また、そこに内包される定形の、あるいは不定形のいろいろのフォルムをお目にかけます。ご高覧いただけましたら幸いです。

HUNCH ハンチ

〒144-0051 東京都大田区西蒲田7-61-13

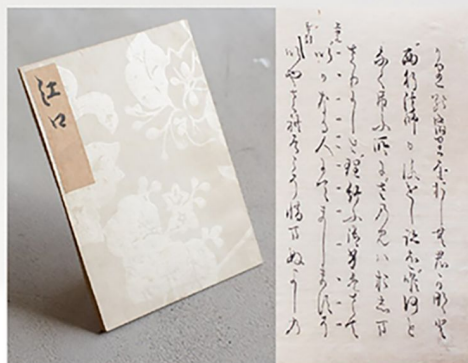
〈最寄駅〉JR京浜東北線、東急池上線・多摩川線「蒲田」駅西口から徒歩6分

※駐車場はございません



江戸ガラス | 江戸時代 (19世紀)

幕末期よりさらに古い時代にさかのぼる格調高い江戸ガラス。ステムの鏝(かすがい)による直しが絶妙なアクセントとなっています。



光悦読本「江戸」 | 江戸時代 | 京都・嵯峨

慶長年間(1596-1615)に刊行された、本邦における最も美しい版本のひとつ「光悦読本」。胡粉をひいた最上等の和紙に本阿弥光悦流の書体が踊ります。



安南白磁碗 | 13世紀 | ベトナム

この時期の安南の白瓷特有のやわらかな色調の白が空間に染み出すよう。薄作端正な器体の見込みに花紋が掻き落として描き出されています。



永井則「銅版萬國方圖」 | 弘化3年(1846)

江戸時代後期の洋画家で蘭学者であった安田雷州が刻した本邦初のメルカトル図法による銅版世界全図。元装の巻子のまま保存されてきたもの。



卵殻螺鈿経箱 | 江戸時代 (19世紀)

ウズラなどの卵の殻を細かに砕き漆地に貼り詰めることで、しっとりとしたきらめきを生み出す「卵殻螺鈿」による経箱。



深田久弥「墨檜」 | 昭和8年 | 江川書房 限定100部

総ルビの美しい文字組を越前手漉紙に施し、紺紙による外装でバインド。戦前期を代表する限定本書肆、江川書房より開版された瀟洒な一本。